弘前市内でも撮影された映画がついに公開！

いとみち

心に染み入る日本のソウルミュージック――津軽三味線がつむぐ珠玉の人間ドラマ。祖母、父と共に三世代で暮らし、家族愛に包まれていた少女が、社会の荒波をたくましく生きる人々とふれあい、成長する。

ー出演ー

駒井蓮　豊川悦司

黒川芽以　横田真悠　中島歩　古坂大魔王

ジョナゴールド（りんご娘）　宇野祥平　西川洋子

物語の主人公は津軽三味線が得意な16歳の高校生・いと。強いなまりのせいでなかなか人に心を開けませんが、芯は「じょっぱり（意地っ張り）」。そんな彼女が「津軽メイド珈琲店」で初めてのアルバイトを体験します。

見どころ

新星・駒井蓮と名優・豊川悦司の親子愛・家族愛

ヒロイン・いとには新星・駒井蓮。津軽三味線を猛特訓し、劇中で演奏に挑みました。シングルファーザーで民俗学者の父役には名優・豊川悦司。思春期の娘の自立に動揺しつつも懸命に寄り添い、不器用ながらも再び親子の絆を結び直します。祖母役は、津軽三味線の巨星、故・高橋竹山の最初の弟子である西川洋子が初めての芝居に挑戦。心地よい津軽弁が映画に軽やかさと温もりをもたらしています。

いとの世界を広げていく個性豊かな女性たち

母の死がもとで内にこもっていた、いとの目を外に広げる登場人物を、『美人が婚活してみたら』の黒川芽以（シングルマザー・幸子役）、「non-no」モデルとしても活躍中の横田真悠（漫画家志望・智美役）、青森県での認知度はほぼ100％のりんご娘・ジョナゴールド（同級生・早苗役）が演じます。彼女たちのゆるやかなつながりには、今の時代にふさわしいシスターフッド（女性たちの連携）の心意気が息づいています。

オール青森ロケ、青森のスター結集

駒井蓮は平川市、古坂大魔王は青森市出身。西川洋子、ジョナゴールド＆とき（りんご娘）、櫻庭悠月、アルプスおとめ、ライスボールなど、青森を代表する才能が結集。弘前市、青森市、板柳町を中心に、ローカル線の五能線や岩木山、浅虫海岸など、青森の風土や歴史に深く根差した名所で撮影が行われました。弘前れんが倉庫美術館、ＥＬＭ、青森市新町通り、パサージュ広場など最旬スポットも登場します。

「けっぱれ」と胸に迫る感動

シングルマザー、若者の困窮、格差社会。現代が抱える社会問題がさりげなく盛り込まれていますが観る人に与える感動はシンプル。「けっぱれ（津軽弁で『頑張れ』）」という方言が熱くストレートに胸に迫ります。どこを切っても本物の味。先の見えない時代に贈る至上の人間賛歌が、津軽の雄大な地に鳴り響きます。

▲ 弘前れんが倉庫美術館

▲ 岩木山

主演 駒井（こまい） 蓮（れん）さんからメッセージ

— プロフィール —

2000年12月2日生まれ、青森県平川市出身。「ニコラ」の専属モデルを経て、16年、前田弘二監督『セーラー服と機関銃-卒業-』で映画デビュー。主な映画出演作に『心に吹く風』（17年／ユン・ソクホ監督）、『名前』（18年／戸田彬弘監督）、CINEMA FIGHTERS『キモチラボの解法』（18年／A.T.監督）、『町田くんの世界』（19年／石井裕也監督）、アニメーション映画『音楽』（20年／岩井澤健治監督）、『朝が来る』（20年／河瀬直美監督）がある。

弘前は春夏秋冬でお祭りがあり、どの季節も楽しみがあってすてきだなと思っています。特に好きなのは、さくらまつりです。小さい頃から毎年桜を見に行っていましたが、いろんな屋台の食べ物を買って、桜の下に座って食べるのが恒例でした。また、外濠に桜が散り、薄ピンク色の花筏（はないかだ）に姿を変えているところも好きでした。

『いとみち』では、弘前高校が登場します。私も馴染みのある学校だったので、まさか映画で弘前高校に入学することができるとは思いませんでしたし、とても嬉しかったです。他にも、青森のさまざまな場所が登場しますが、個人的には相馬いとの家がお気に入りです。美術部の方が、地元の人からさまざまな生活用品を集めて、相馬家の生活風景を作ってくださいました。そのため、「改めて考えると、これは青森の家独特の食べ物、日用品、習慣なのかもしれない」と気付くことが沢山ありとても面白かったです。

今の青森の空気、匂い、温度が優しく染み込んだ作品になりました。地元の懐かしい姿、そして新しい姿を見に、劇場にお越しいただけたら幸いです。

6月18日（金）青森先行上映

6月25日（金）全国公開

劇場情報など詳しくはこちら

映画『いとみち』公式サイト

http://itomichi.com/

■問い合わせ先　弘前観光コンベンション協会（☎35-3131）

©2021「いとみち」製作委員会